

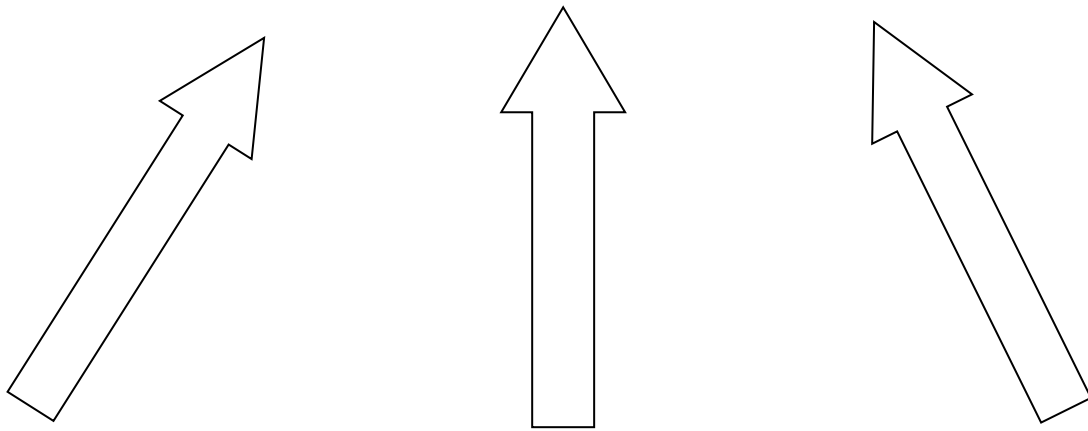
確かな学力を育成するために

ー令和7年度授業創造プランー

1 日野市立夢が丘小学校の目指す「授業創造プラン」の取組

授業の充実（授業創造プラン）

- ・児童が自主的・主体的に活動できる様々な場を設定し、自ら考え、判断し、表現できる力を身に付けられるようにする。
- ・ねらいを明確にした意図的・計画的な授業を展開する。
- ・学習者用端末を効率的に活用し、一人一人の確かな学力の向上を図る。
- ・自ら課題を設定し、興味・関心を高め、解決しようとする力を基に、さらに次への課題に結び付けていく力を育む。



教師の授業力

- ・校内研究
- ・OJT 研修
- ・教員相互の授業参観、交流
- ・PDCA サイクルでの授業改善
- ・研修会・研究会への参加
- ・幼稚園・保育園・中学校との連携

学びを支える条件

- ・学習規律
- ・学習準備
- ・話の聞き方、ノートのとり方
- ・豊かな直接、間接体験
- ・読書指導の充実
- ・学びの動機付け、学ぶ姿勢

家庭での基本的な生活習慣

- ・適切な睡眠時間、朝食、排便
- ・家庭学習の習慣化
- ・読書生活の充実
- ・計画的な TV 視聴、ゲーム

2 5・6年生学力調査結果から

5年生

教科	教科総合 平均正答率			基礎 平均正答率			応用 平均正答率		
	夢小	日野市	全国	夢小	日野市	全国	夢小	日野市	全国
国語	65.2	63.7	65.5	69.3	67.6	68.8	44.8	44.2	48.6
算数	64.1	69.2	70.7	70.8	74.8	76.0	44.1	52.3	54.7

【傾向・分析】

○国語に関しては、「基礎」「応用」共に日野市の正答率を上回っていたが、「応用」では全国の前答率を下回った。問題形式別にみると、記述式や短答式など、自分の考えを書く問題の前答率が低かった。自分の意見を持ち、友だに伝える活動を多く取り入れ、自分の意見に自信をもって伝えることができるようにしていく。意識調査のアンケートから「授業で学習した内容をその日のうちに復習をする。」と答えた児童は、全国平均よりも14%低く、全体的に日々の学習に課題が見られる。授業で学習した内容の反復学習を家庭学習で行い、確実な基礎学力を身に付けていけるようにする。

○算数に関しては、「基礎」「応用」共に日野市、全国ともに正答率を下回っていた。観点別にみると、「思考・判断・表現」に関する問題の前答率が大きく下回っていた。基礎・基本の定着を大切にしながら、応用力を身に付けるための学習を取り入れながら、ワークシートやドリルの選定を見直し、学力テスト等にも対応できる力を習得していけるような学習を工夫していく。意識調査のアンケートから「算数が好き」と答えた児童は、全国平均よりも10%低く、理解度について肯定的に答えた児童は全国平均よりも5%低かった。授業内容を工夫したり、友だと学び合う時間を取り入れたりしながら、算数に対する意欲を高めるとともに、学力の向上を図っていく。

6年生

教科	問題数	平均正答率（％）		
		夢小	東京都	全国
国語	14	61	70	66.8
算数	16	57	64	58.0
理科	17	56	60	57.1

【傾向・分析】

○国語に関しては、既習漢字の書き取り問題の正答率が特に低かった。学習した漢字を正しく書き分けることに課題が見られ、無回答率も高かったため、基礎学習の学習方法の見直しが必要である。意識調査のアンケートから「国語の勉強は好きで授業は分かる」と答えた児童は全国平均よりも多くいることから、授業で学習した内容の反復学習を家庭学習で行い、確実な基礎学力を身に付けていけるようにする。また、「授業で資料から適切な内容を読み取ったり自分の伝えたいことを正しく書き表すことができる」児童が全国平均よりも低かったため、相手の立場や考えの違いを意識して話し合ったり自分とは違う意見や考えをまとめたりする活動を通して、思考力や判断力を育てていく。

○算数に関しては、学習指導要領の領域別に見ると、「数と計算」領域は全国平均より 0.8%高かったものの、それ以外の領域は全国平均よりも低く、特に「図形」領域は 3%低い結果であった。出題別では、分数に関する問題の正答率が低く、無回答率が高かった。問題形式別に見ると、記述式の無回答率が高い傾向にあった。これらのことから、日頃の四則計算のような基礎学力は全国平均レベルにあるものの、既習事項を使って新しい課題を解決する力は低く、何も手をつけられない児童が多いことが分かった。意識調査のアンケートでは、「算数が好き」「算数は大切である」と考えている児童は全国平均よりも低く、全体的に苦手意識が高いと感じた。また、分からない問題に出会ったときに粘り強く解こうとする意欲が低いため、習熟度別指導で丁寧な指導を心がけ、より基礎・基本の定着を図っていく。児童が興味・関心をもち、自主的に学ぶ楽しさを味わえるよう、個に応じた学力の向上を目指していく。

○理科に関しては、学習指導要領の区分・領域別に見ると、「粒子」を柱とする領域は全国平均より 1.3%高かった一方で、それ以外の領域は全国平均よりも低く、特に「エネルギー」を柱とする領域は 2.7%低い結果だった。問題形式別では、短答式や記述式の正答率は全国平均よりも高く、特に短答式は 3.1%高かった。選択式の正答率は全国平均よりも 2.6%低く、無回答率も低い傾向にあった。これらのことから、授業中に問題解決を繰り返し、「なぜ?」「どうして?」の問いに対して、自分なりの答えを導き出すことができていると考えられる。しかし、知識の定着に課題があるため、家庭学習では週末に持ち帰る学習者用端末を活用し、知識の定着を図るよう指導していく。意識調査のアンケートでは、「理科が好き」「理科の授業はよくわかる」と答えている児童が 90%と高いため、今後も児童が興味・関心をもち、自主的に学ぶ楽しさを味わえるような授業展開を行っていく。